



カタクチイワシ(瀬戸内海系群)

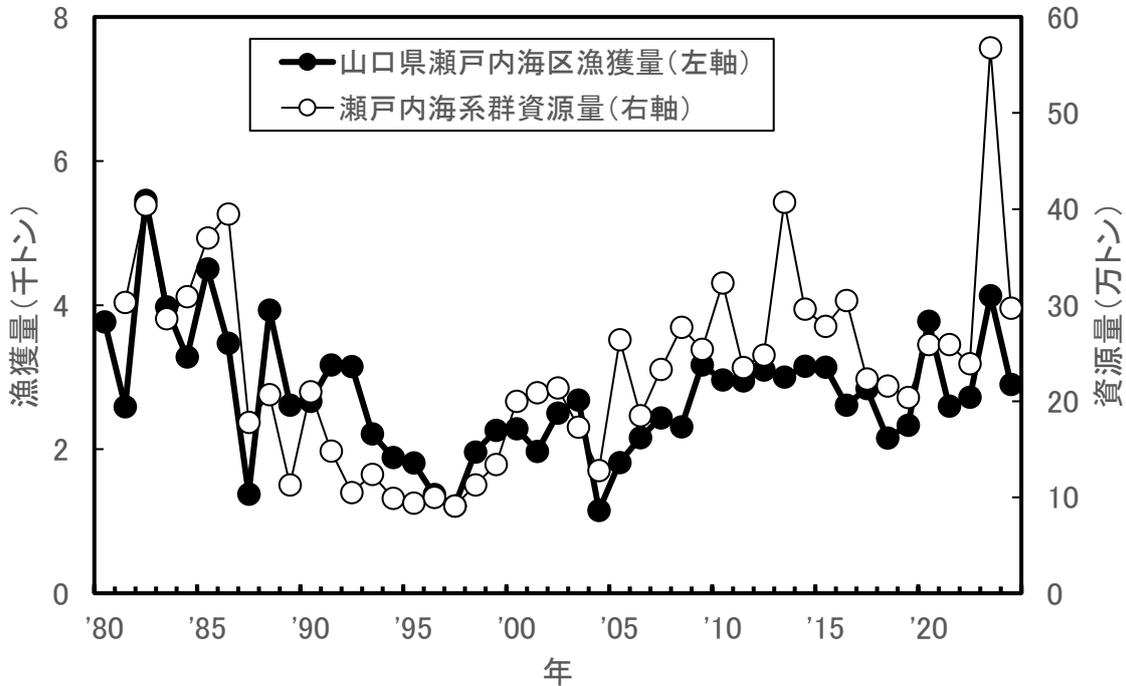


図 山口県瀬戸内海区カタクチイワシ漁獲量(農林水産省統計情報水産業調査 HP)及び瀬戸内海系群カタクチイワシ資源量((国)水産研究・教育機構資源評価報告書)の推移

【漁業】カタクチイワシは主に船びき網で6~11月頃にかけて煮干原料として漁獲されるほか、冬季には、たもすくい網で鮮魚向けに漁獲される。なお、本県瀬戸内海区では基本的にしらす銘柄を漁獲対象としていないが、わずかに混獲される場合がある。

【漁獲量】本県瀬戸内海区の漁獲量は、1982年の5,456トンから減少して1995年に1,811トンで評価期間における最低値となった後、変動を伴いながら緩やかに回復し、2024年では2,899トン(資源評価報告書暫定値)であった。

【資源状態】資源量は、1987年に急減した後、1997年には9.1万トンまで減少した。その後は増加傾向を示し、2024年には29.7万トンとなった。

2024年の親魚量は最大持続生産量(MSY)を実現する親魚量(目標管理基準値)の2.6倍と大きく上回っており、同年の漁獲圧も十分に低いため、資源状態の目安となる神戸チャートにおいて、2024年は緑ゾーン(青信号)にプロットされた。

カタクチイワシ瀬戸内海系群の資源評価関連指標値等

2024年漁獲量	最大持続生産量(MSY)	2024年親魚量	目標管理基準値	限界管理基準値	禁漁水準
3.6万トン*	3.9万トン	11.1万トン	4.3万トン	1.7万トン	0.2万トン

* 農林統計値からシラスに相当する月齢分の漁獲量を除いた値